

屑町人国家日本、儒教、武士道を捨てた

日本人（アメリカンモンキー）

赤塚一誠

孔子はその生涯を懸けた儒学で、忠孝思想を人々に広めた。仁、義、礼、知、信の五常を基本となす儒教は、中国人は元より、韓国人、日本人の生活に根差したものであった。現代では、日本人だけが、この思想を捨て去った。戦後六十有余年、無縁社会を造り上げ、無情無徳の末法の世をひけらかした。心無き戦後のアメリカンナイズ日本人は、大東亜戦争を起こしたのは忠孝思想を押し付けた儒教のせいだ、などと云う。果たして戦前迄の儒教、武士道が国家理念であった日本社会は悪だったのだろうか？ 否、断じて否定する。理不尽なロシア帝国、アメリカ合衆国とともに戦ったのは、アジア諸国では日本だけであり、日露戦争、対米戦争とも明らかに義戦であった。孔子は云う。——見義不為、勇氣無也、中国大陸や朝鮮半島の土地を次々に食いものにするロシア帝国。日本人が測量をし、日章旗を掲げた樺太や千島列島を火事場の泥棒のように奪い取ったロシア人。太平洋の島々を侵略し、黒人やアジア人を差別迫害したアメリカ人に対し、たとえ国力が五倍十倍と違えども勇氣をもって戦ったのは、儒教、武士道の国日本だけである。アメリカが日本に勝てたのは、生産力が上回っていたからに過ぎない。もし同じ生産力をもっていたら、間違いなく日本が勝利したであろう。当時、日本海軍のパイロットの技量は世界一であり、日本の兵隊は最強の兵と言われていた。昭和二十年の沖繩戦一つとってもわかるだろう。千五百隻のアメリカ軍に対し、戦艦大和を主軸とする千五百隻の艦隊で沖繩を奪い返しにいけばどうなるか。上空は零戦、紫電改などの戦闘機が援護の為に飛んでいく。アメリカ軍の Mustang やコルセアなど撃ち落とされるであろう。当時のアメリカ軍にはレーダーも装備されており、日本軍の暗号も解読していたという。要するに圧倒的有利な状況でアメリカ軍は対日戦に突入したのである。勝利するのが当然であった。無論、不利な日本軍にも勝つ可能性はあった。ミッドウェイ海戦で奇襲戦などせず、大和以下大艦隊で堂々と突き進めば、アメリカ雷

撃隊は空母だけを集中的に雷撃することはできなかった。日本の優秀なパイロット達は、二隻の空母を撃沈していたことは間違いない。アメリカ海軍は壊滅していたであろう。戦争には運不運が付きものである。日本軍は女神に見放されたというところか。運よく対日戦に勝利したアメリカは、統治と称して内政干渉をさせた。たかだか一戦に勝利した位で、敵国に居座り、その文化、法律までも変えようとしたのはアメリカだけであった。その国のボスはマッカーサーとかいう陸軍司令官であった。マッカーサーは調子に乗り、(日本人は一二歳位だ)などとぬかして、伝統文化の忠臣蔵を上映禁止にしたりした。彼は余程日本人が怖かったらしく、日本から武士道というものを排除する計画を建てた。その第一歩として至る所にアメリカ軍を駐屯させ、チコレートやチューインガムを日本人にばら撒いた。三千万の豚の餌を日本人に配り、アメリカへの恩を植え付けさせた。アメリカ兵には次々に日本女をレイプさせ、骨抜き国家にすることに成功した。あろうことか、この時武士道だけでなく、日本人が二千年間培ってきた儒教さえも失ってしまったとは、日本人は気づかなかったのか。民法上は無くなってしまった家督制度というものも田舎の農村ではかすかに残っていたが、八〇年代末期バブル時代とともに崩壊してしまった。「生受け三年、何も出来ぬ自分を父は立たせてくれた。この恩に報い、父亡き後、三年喪に服す」という忠孝の道を忘れ、親子の縁が希薄となり、女房が一番大事なアメリカンデモクラシー国家となりはてた日本。八度結婚したら、一体何度めの女房が大事なのか教えてもらいたいものである。家族にとつて一等大切なものは、一番最初に生まれし嫡男である。そのかわり嫡男は一家の当主として責任をもち、父への考を尽くし、その死に水を取り、喪主として先祖の墓所を継承していく。それが儒教であり、その後この国に浸透した武士道の教えであった。富士山に降り積もった雪が、何年もかけて地上へ降りて三島の湧水となるように、我々日本人は二千年かけて儒教と武士道が入り交ざりて独特の国家をつくりあげたのだ。それを一戦した新興国につくり変えられてしまっただけではない。国の根幹は変えられてはいけないのだ。ジーパンをはこうが、ロックを聴こうがそんなことはかまわない。親子関係、阿順、年功序列など大樹のように根の深い文化伝統は捨て去ってはいけないのだ。「君子喻於義、小人喻於利」孔子は小人は利のみ考えろという。戦争に敗れた日本人は、武を捨てて利に走った。戦後三十年位はまだ明治生まれの日本人が大勢生存していた。儒教武士道教育を受けた彼らが睨みをきかしていた為、

あからさまに利益第一をいうものはなかったが、バブル時代とともに日本人の理性は崩壊した。今まで真面目に働いていた中高年さえも利己主義に走り、気が狂ったようになってしまった。世界一利己的だったアメリカ人を乗り越え、醜いエコノミックスアニマル日本人が誕生したのは、まさにこの時であったろう。九〇年代バブル経済が崩壊した後、大不況の時代がやってきて益々日本人は屑町人化してきた。格差社会が広がり、失業者は五%を超え、凶悪事件が頻発しておこった。親子での殺し合い、通り魔事件、詐欺事件は戦後最大を記録した。街には防犯カメラが溢れ、何かといえ警察へ通報する人々だらけになった。まさにナチス政権下の警察国家のような姿になってしまった日本。筆者が子供の頃は、東京郊外の家々は皆、鍵が解放されていた。小学校の前でテキヤがピンク色のヒヨコを売っていても誰も文句をいわなかった。警察はさぞや暇だったであろう。日本の子供達は地域が育てる。という江戸時代のような風潮がかすかに残っていたように思う。七〇年代迄の日本には戦前生まれが大多数であったし、利己主義は悪だという儒教が残っていたのである。五〇年代六〇年代生まれの少年たちは、古き良き日本人達から教育を受けておきながら、アメリカナイズ利己主義者になってしまった。神風特攻隊の生き残り爺さんなども見てきたはずなのに、なぜアメリカンモンキーになり果てたのか？ 武士道をもった日本人を選択しなかったのか？ 八〇年代以降、屑町人日本人となった悪の元凶は、戦後生まれた日本人であると筆者は睨んでいる。彼らが忠孝を捨て、利己主義を格好いい生き方だと考えるようになったのだ。親兄弟との関係を希薄とし、無縁社会を良しとしたのだ。さらに、わが子の命さえも軽視する夫婦が世に蔓延した。草食動物はわが子を守る為にライオンとさえ戦う。屑日本人はわが子の命より己の命を第一に考える、動物以下の屑生物である。何故日本人はここまで変化してしまったのか？ 世界中の国々がもっている国家理念をなくしてしまったからではないだろうか？ 即ち、戦前迄この国にあった儒教、武士道をもう一度復活させなければ、日本人は小子化とあわせて本当に絶滅してしまうのではないだろうか？ 昭和二十年、アメリカ軍が日本に駐留してから現在まで、僅か六十年余りである。昭和二十二年、マッカーサーの陣頭指揮により、日本国憲法、新民法が作成された。この時、神武天皇より起こりし「儒教国家」その後、侍達が支配した武士道が国家理念であった日本国は滅んだのである。天皇家は代々、父子系男子が継承していく。孔子や天皇、武士達の伝統が庶民一億人と切り離された瞬間であった。

家督制度は悪とされ、兄弟の序列は差別とされ、女房が一番優遇されるアメリカン
ピープルとなってしまった日本国。戦国時代、暴君父武田信虎から愛され、跡を継
ぐように言われた次男信繁は、父から渡された物はすべて兄信玄に持参し、「この
国を継ぐのは兄上です、私は兄の家来に過ぎませぬ」という美しい次男武田信繁の
ような弟はいなくなってしまった。あわよくば兄の地位を狙う、伊達小次郎や織田
信行のようなアメリカ弟ばかりになってしまった日本。今一度、人間の美しさ、正義、
忠孝を教えてくださいました武士道を取り戻さねばならない。民法や憲法をもう一度改正す
るというのも一つの方法だと思うが、我々庶民の一人一人が儒教、武士道を見直し、
草の根運動のような形で大家族が家督制度を復活させ、アメリカのような個人第一
主義国家から離脱することが大切なことなのである。個人ばかり重視して個室に籠
もる閉鎖社会は否定されるべきである。隣人の顔も知らず、赤子が餓死したり、殺
人事件が日常的に起こる犯罪国家になってしまった日本。欧米と全く同じ、アメリ
カの属国といわれても仕方ないではないか。かつて欧米から異文化扱いされた、東
洋の神秘といわれた武士道の国日本をもう一度取り返すのだ。たやすいことだ。我々
の先祖が千年間に渡り生きてきたのだから、……………